

クラウドの利用により情報共有と業務の効率性を進めた事例

東京都大田区の株式会社スリーオーク（従業員 8 名、資本金 300 万円）は、不動産・宅建業を手がける企業である。2000 年に創業し、地域に根づいた不動産業として、地元を回って、物件情報を収集することで、きめ細かな対応をしている。

これまで、地元の不動産業というと、紙で物件情報を示し、ファクシミリでやりとりをすることも多かったが、近年、大手による不動産のポータルサイトも増え、膨大な物件情報が流通し、自由に検索が出来るようになってきている。以前は、不動産業者として、物件情報を自社で抱えている方が有利な面もあったが、現在は需給が逆転しており、市場を取り巻く環境も大きく変わっている。

こうした中、2009 年に同社もいち早く、大手 IT 企業が提供しているクラウド・コンピューティングを導入。物件情報や経営情報等の重要な情報は、自社の専用の情報システムで管理をしているが、クラウドを用いた、データ管理やカレンダー機能等を活用することで、社内の情報共有と業務の効率化を進めることに成功した。

また、家主をはじめ関係者との信頼関係を築くため、家賃情報等をリアルタイムで更新することで、正確かつ迅速な情報共有を徹底している。少人数で事業をしているうちは問題がなかったが、従業員が増えてくると、こうした IT 活用による情報共有が不可欠になったという。こうした取組の結果、同社では業務効率が改善し、収益性が向上している。

中小企業によるクラウド等の IT 活用について、塩澤社長は「当社が所属する東京都不動産協同組合でも、大手 IT 企業と連携し、クラウド・コンピューティングを提供しており、中小企業にも利用しやすい環境が整いつつある。中小企業単独では大手と勝負することは難しいが、やる気がある 20 社ぐらいが集まれば、IT 活用も含めて様々な可能性が出てくる。」と話している。



クラウド・コンピューティング活用イメージ